

社会連帯活動と公共

一般社団法人 日本社会連帯機構
事務局長 玉木信博

1、はじめに

① 社会連帯活動の大事なこと

「やってみよう、をカタチにする」・・・住民の「やってみたい」や「困りごと」、「もったいない」が持ち込まれ、願いやニーズを共有し、主体を育む「場」を作られる。同じような「困った」は全国各地で共通に存在し、活動が人々を結ぶ。

② 活動を始める前に考えたいこと

だれとどのように連帯し、何を為すのか。それは、(地域)社会連帯をつくるものかどうか。

2、公共とは

社会全体／おおやけ／私 (private) や個 (individual) に対置される概念

※公共の哲学について

ハンナ・アーレント (1906-75)

公共圏ないしは公共世界を「共通性と独自性をもつ人々の活動的コミュニケーション」によって生成する。

ユルゲン・ハーバーマス (1929-)

「人々が対等な立場で討議し合いながら合意形成を目指す場」

新型コロナウイルスによって、社会連帯的な市民と住民が創る新しい公共と、行政が担う旧来の公共の在り方が問われる形になった。

3、2004 年、そもそも、ワーカーズコープ・センター事業団はなぜ社会連帯委員会（現・

日本社会連帯機構）を創ったのか

課題・目的意識

- ① 事業・経営に迫られて組合員が組織としての理念・原点からかい離しないようしたい(組織的テーマ)
- ② 社会運動の観点(身近な地域社会の問題)が働く人たち一人ひとりの意識となるようにするには(働く組合員のテーマ)
⇒「ワーカーズコープの組合員自身が自らの意思で地域や市民そして広い社会運動と直接むすぶ運動体がどうしても必要であった」(ワーカーズコープ・センター事業団 永戸祐三代表理事(設立当時))
- ③ これまでの課題別、縦型の運動組織ではなく、あらゆる社会運動と結ぶ運動組織の構想

↓

組織内での連帯活動を超えて、一人ひとりが足元から連帯をつくる活動に

- ・例え事業に直接的に結ばなくても自らの課題意識と社会問題を地域を通じて結ぶこととして、社会連帯機構は利用できる。自主的・主体的な活動を生み出せること。そして、それはワーカーズコープの実践にも大きな影響を与えてくれる（組合員の主体や、社会連帯経営への発展）
- ・テーマが幅広く、市民（個人）、地域の町内会、自治会、NPO や労働組合、協同組合等、あらゆる組織を結ぶ取組み（協同集会等）に向かうことができる。

Ex 旭川子ども食堂

2015 年から子ども食堂を運営。子ども食堂の運営として地域の子どもを支えるネットワークをつくり、2016 年に「おとな食堂」にも発展。子ども食堂には、地元農家が食材を提供。現在、ネットワークで出会った大学教員や地域住民と共に、自立援助ホームの立上げの準備をしている。地元住民からのカンパ（数百万円）、地元企業の家電販売店から、自立援助ホームに必要な家電の全てが寄付される。子ども食堂から社会連帯による仕事づくりへ展開している。

Ex 千葉県佐倉市中志津団地自治会との活動

2015 年「クローズアップ現代：自治会編」という学習会を中志津地域で始める。2016 年ワーカーズコープに自治会費の集金作業の相談が入る。自治会の方々の話を聞く中で、「しごとおこしセミナー」を開催。ワークショップ等を繰り返し、地域住民が次々と「やりたいこと」を提案。千葉県の高齢者の仕事づくり助成金（100 万円）を日本社会連帯機構（東関東地方委員会）として受託。現在複数のグループができ、協同労働の協同組合（ワーカーズコープ）づくりへ向かうグループ、持続的な社会連帯活動を行うグループなどの準備をしている。

EX ワーカーズコープふじみ野そらまめ地域福祉事業所

事業所設立時（2010 年 12 月）の直後、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災に伴う原発事故で、埼玉県内には多数の避難者が公営住宅に避難した。開設したばかりの事業所（介護保険事業）の休業日の社会連帯活動として、グループにんじんと名付け、避難者の交流や懇親を定期的に繰り返してきた。福島へ帰る人の見送りとその後の継続的な連絡や訪問、残る人びとの生活の相談や仕事の受入れ、原発事故に関する映画上映会など、現在に至るまで行ってきた。原発事故における一人ひとりの言葉や生き方から、事業所のメンバーは多くの事を学んだという。また、事業所立上げ後の運営サポートや、送迎なども、一緒になって取り組んできてくれた。2016 年 11 月、事業所の移転の際には、資金や物件探し、改装等も一緒に行ってくれた。地域の仲間であり、グループにんじんの活動なくして、事業運営は考えられないと、所長の島袋さんは語る。活動に関しては、日本社会連帯機構北関東地方委員会の他、コープみらい生活協同組合等の補助も受けている。

EX 社連 TOKYO（日本社会連帯機構東京都本部）の設立（2019 年）

東京の 5 地方委員会が集まり、社連 TOKYO を結成。積極的にワーカーズ以外から評議員になっていただき、活動を進めている。生き生きと自由に語り合い、多様性（異なる他者への関心をもつ）を面白がる

人びとが集い、受容される安心感。欠かすことのない「ともに食べること」(コロナによって現在は延期)
「ひととは共に食べることで共同性が生まれた(山極寿一)」

EX 札幌篠路和気藍々:「精神疾患とともに生きる会」

地域のさまざまなひとが「自分ごと」を持ち寄ることのできる空間。そこに「他人ごと」が入ることのできるゆとり。常に誰にでも開かれている場。立ち寄る目的はさまざまで、目的がなくても大丈夫。あたたかい美味しい食べもの。当事者の当事者による相談機能空間。

4、現在の組織体制と会員について

① 運営

個人会員：約 6500 人 団体会員：8 賛助会員、理事会（40 名、現在各地方委員会より一名以上）

- ・本部（中央本部・東京池袋）
- ・支部（地方委員会）：全国 13 地方委員会（北海道、東北、北関東、東関東、埼玉、東京（5 支部社連 TOKYO）、池袋本部社連、神奈川、東海、北陸信越、関西、中国四国、九州・沖縄

※今後、都道府県単位の地方委員会への発展を目標にしている。2018 年 1 月、沖縄県本部を設立に向けて準備中。

② 活動予算

現在、活動は団体会費と個人会費を基盤。また、様々な社会連帯活動を通じた企画の参加費等が収入となっている。

【団体会費】 10000 円（一口） 【個人会費】 正会員：1000 円／月 賛助会員：1000 円／年

5. 全国の実践

・沖縄連帯基金の実践

沖縄への過度な基地負担、それに伴う米軍による犯罪、そして主権と地方自治の侵害に抗する連帯の活動として沖縄連帯基金は 2015 年 10 月にセンター事業団、労協連の三団体で設立。2017 年 9 月末現在、約 2000 万円程のカンパ（機構からの補助含む）が集まり、会員の辺野古や高江での座り込みにかかる渡航費、及び半額を辺野古基金へのカンパとしてきた。今期より沖縄での仕事づくり、大学での寄付講座を基金の活動として位置づけ、基金名を「沖縄連帯まちづくり・仕事づくり基金」と改名、1 億円の基金づくりへと発展させる。また、2018 年 1 月に日本社会連帯機構沖縄県本部を立ち上げる準備会を進めている。

・TPP 差し止め違憲訴訟の実践

パルシステム連合会、生活クラブ生協等と共に、訴訟の会に正式に加入している。原告団への参加、署名活動の展開、学習会の企画などを行っている。私たちのあらゆる生活に関わる分野（医療、福祉、保険、

2020 年 6 月 25 日

雇用調整助成金関連研修

食品、農業、特許、工業製品等)の自由市場開放にも関わらず、その内容は不透明であり、条約で定められた自由貿易に不都合があれば国内法は適用せず、多国籍企業が国家に損害賠償できる ISDs 条項等、主権を脅かされる内容。アメリカは、移民の労働力の流入に反対する新大統領の就任で TPP への批准を白紙にし、TPP は効力を失ったが、日本は TPP 批准後想定していた国内法の改正を次々と展開、日米二国間での自由貿易協定の準備とも受け止められている。

・守ろう、介護保険市民の会の取組み

厚生労働省介護保険部会は、年度当初、要介護 1・2 を保険制度から除外し、さらに福祉用具や住宅改修、生活支援の全額自己負担を掲げていたが、福祉用具に関しては、1 割から 3 割負担、現在検討中 (2016 年 12 月)。これらの改正案を介護保険制度設立当初の理念や仕組みとかけ離れたものとして、2016 年 10 月に介護保険制度改悪に反対する会を設立。署名活動、自治体での意見書採択、院内集会等を展開。

・全国達人名人サミット in 西桂町 (山梨県)

2016 年 3 月広島県神石高原町で第 1 回を開催した本サミットの第 2 回となる登米市で開催。「ないものねだりから、あるもの探しへ」の地元学を目標に、地域住民が主体となって創りあげ、参加できるような地域主体のサミットに向けて準備を進めた。特に地元の女性たちが主体で行った「食の交流会」は各集落や合併前の地区等を基盤として開催され、普段は地域の会議等に参加できない女性や高齢者の活躍の場としても非常に盛り上がった。2018 年は山梨県西桂町で開催。

・全国名人達人サミット in 富山市山田の開催。

2019 年 8 月そこに既に在る地域の宝とは何か。暮らしを楽しむ人びとの魅力 (食の文化祭、聞き書き)。よそ者の必要さ、よそ者を受け入れる住民、暮らしや仕事を楽しんでいる住民
「正しさだけではなく、むしろ楽しみ方を知る人の周りに、人が集まる」

「難しいことを優しく、優しいことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に、真面目なことを愉快に、愉快なことはあくまでも愉快に」(井上ひさし)